

TEAM TARO

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2021 Round.5 MFJ-GP SUPERBIKE RACE in SUZUKA



藤本電機工業



TARO SEKIGUCHI

SANMEI Team TARO PLUSONE

TARO SEKIGUCHI RACE REPORT #9

2021 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦 第53回 MFJ グランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿

三重県・鈴鹿サーキット (1周=5.821km)

クラス: JSB1000 マシン: BMW S1000RR タイヤ: BRIDGESTONE

2021年7月17日(土) 天候: 曇り コース: ドライ

レース1 予選: 14番手 (タイム: 2分09秒542) 決勝: 13位

2021年7月18日(日) 天候: 曇り時々雨 コース: ハーフドライ

レース2 予選: 14番手 (タイム: 2分09秒807) 決勝: 14位

観客動員数: 10,500人 (2日間合計)

TARO





TARO いい流れをつかめなかった真夏の鈴鹿ラウンド

TARO SEKIGUCHI

三重県・鈴鹿サーキットで全日本ロードレース選手権シリーズ第5戦が開催された。例年であれば、鈴鹿8耐がある時期だが、今年はコロナ禍のため、全日本最終戦と日程を入れて行われることになり、全日本が真夏の鈴鹿であることは異例のことだった。

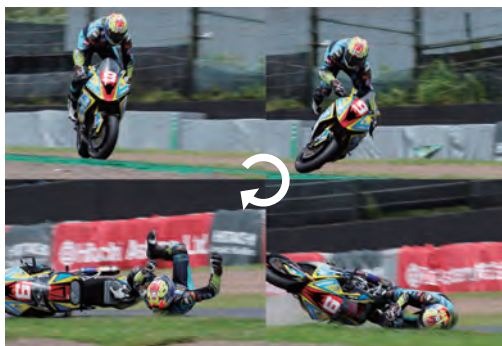


6月3日に1日だけタイヤメーカーテストがあったが、事前テストはなかったこともあり、レースウィークは、木曜日の特別スポーツ走行から始まった。その走り出しからアクシデントが発生する。コースインし、バックストレートを加速して行くと急に重くなった感触があり130Rでクラッチを切る



とエンジンの回転が急に落ち込んでしまう。瞬間的にエンジンが壊れたことに気がついた関口は、情性のままピットイン。ドイツのアルファレーシングから取り寄せ、ようやく届いたエンジンだったが、一度もレースを戦う前に壊れてしまった。

仕方なくスタンダードエンジンを積んだTカーで走り、暑いコンディションに合わせマシンセットを進めて行き、金曜までの30分4セッションで、いい状態になってきていた。



そして土曜日の公式予選を迎える。セッション序盤に相次いでアクシデントがあり、2度赤旗が出される。再開後に関口はペースを上げていき、2分09秒台を記録。そしてピットに戻りニュータイヤを履くと最後の攻撃に出ていく。コースインし、タイヤをしっかりと暖め、いざタイムアタックと最終コーナーでアクセルを開けていくのだが…。ハイサイドでバランスを崩した関口は、左肩から路面に叩きつけられてしまう。左肩の状態は、自分自身で「肩鎖関節脱臼だな」と分かったと言う。メディカルでチェックしてもらい、もたらろう先生にテーピングしてもらい、あっという間にレース1を迎える。



14番手グリッドから、まずまずのスタートを切った関口は、16番手でオープニングラップを終え、前を追っていく。5周目

にトップを走っていたライダーが転倒し、セーフティカーが入る。関口としては、緊張の糸が切れると痛みが押し寄せてくるため、セーフティカーは、入って欲しくなかった。セーフティカーランが解除となり、慎重にペースアップ。9周目に1台をかわし13位でゴールした。



日曜日は朝のウォームアップ走行をキャンセルし肩を温存。レース2は、レース1より2周多い16周で争われた。関口は、スタートで出遅れてしまうが、1台、また1台とポジションを上げ、5位の10位争いに加わっていく。スタンダードエンジンだけに、ストレートで離され、コーナーで差を縮めを繰り返し、前に行くことができない。身体も満身創痍で厳しい状況だったが、何とかレースを戦い抜きチェッカーフラッグを受けた。

■関口太郎コメント

「今回のレースは、初日からいい流れをつかむことができませんでした。予選でのハイサイド転倒で悪い方向に行ってしまいました。何とか2レースを完走しポイントを獲得することができましたが、悔しいですね。全ては、転倒した自分のせいですが…。8月アタマのオートポリステストは見送り、岡山テストから復帰できるように治療に専念します。三井電気工事様を始めスポンサーの皆さま、ファンの皆さん、引き続き応援よろしく願っています」



TARO

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com